

●成城地区『脱炭素地域づくり』に関するアンケート結果



■ 調査期間：2023年12月13日～2024年1月31日

■ 調査方法：郵送及びWEB

■ 調査対象：『脱炭素先行地域』検討エリアにお住まいの約3800世帯

成城2丁目1～32番・41番、成城3丁目4～14番・22～26番、
成城4丁目1～31番、成城5丁目1～26番、成城6丁目17～33番

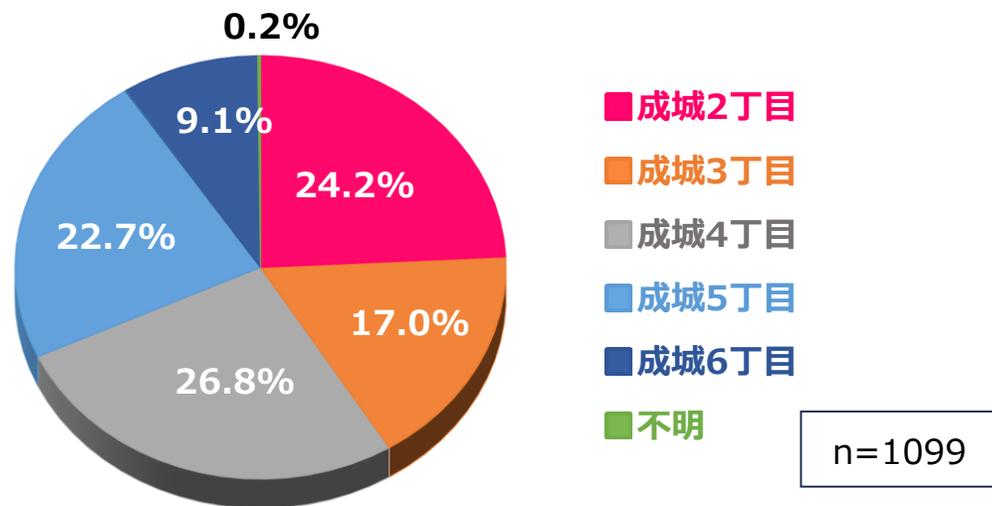
■ 回答数/回収率：1100件／28.9%

■ 有効回答数/有効回答率：1099件／28.9%

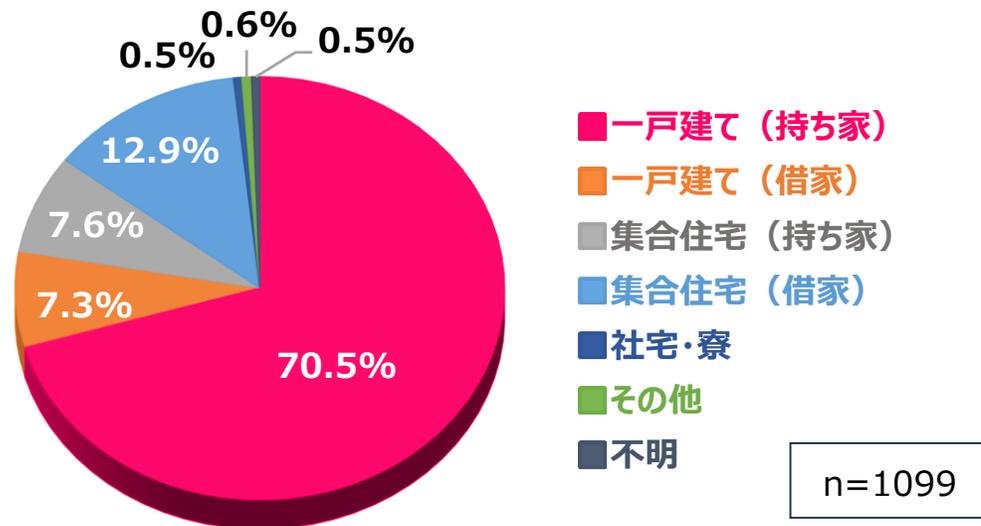
※郵送・WEBの重複回答を除く。



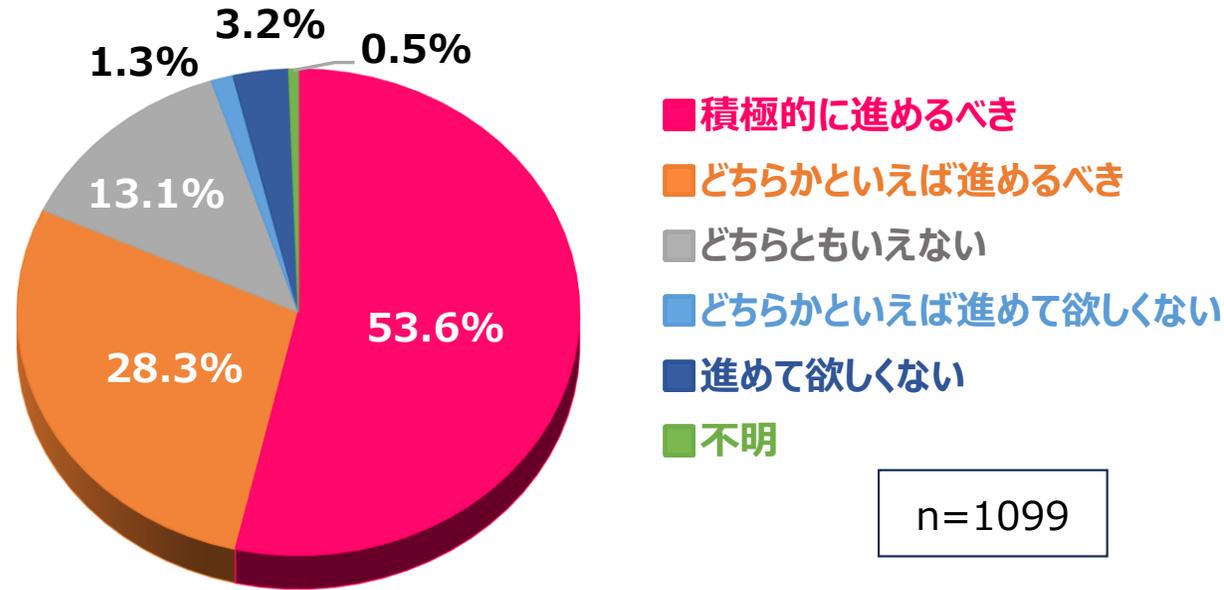
問1-1 お住まいの地域



問1-2 お住まいの住居の形態



問2-1 「脱炭素先行地域」に応募し、脱炭素の取組みに対する住宅向けの支援や、地域づくり（みどりの保全や安心・安全対策、地域コミュニティの再構築等）を進めることについて、どのように思いますか？



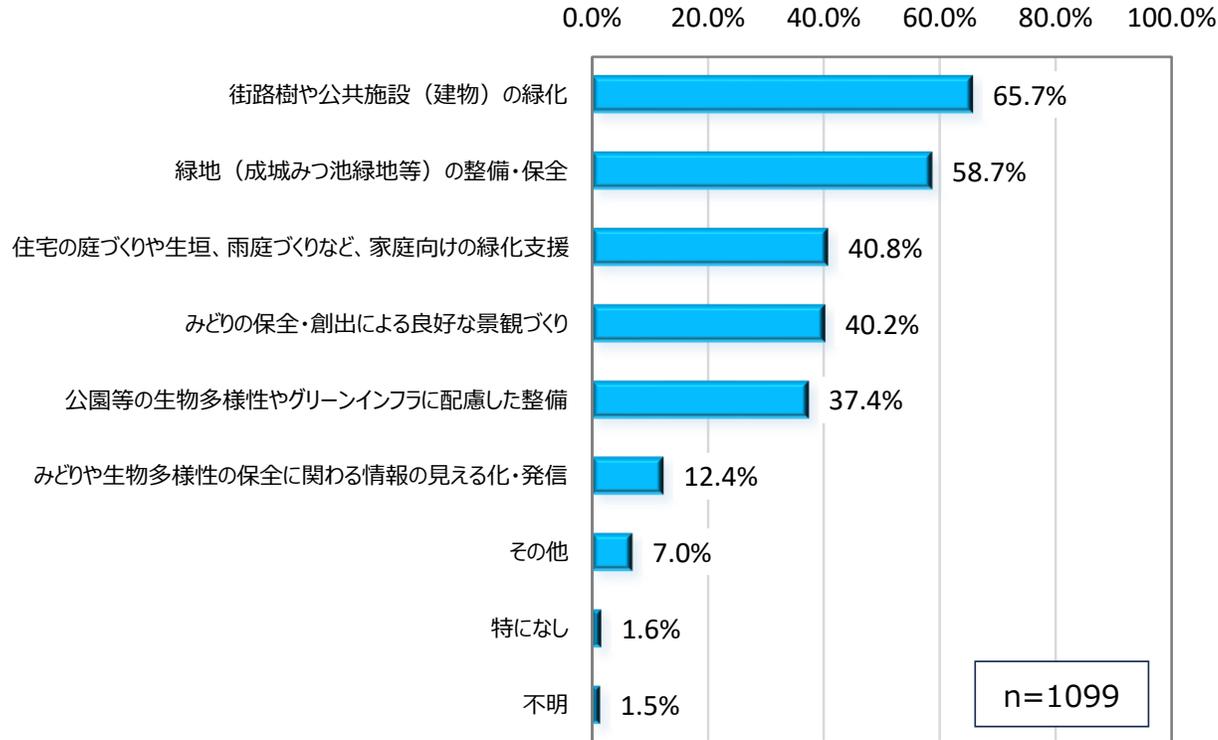
問2-2 その理由（回答577名：述べ650件）

地球環境・環境保全(171)、みどり・生物多様性(61)、次世代継承・未来への貢献(56)、地域の魅力の維持・向上(51)、脱炭素の情報不足(30)、脱炭素の取組みに対する懸念(22)、国・行政政策(21)、できるところから(21)、先進的・模範となるまち(12)、安全・防犯(11)、積極的推進・早期実施(11)、太陽光パネルへの懸念(10)、費用・コスト面での不安(10)、コミュニティの再構築(8)、高齢化への懸念(7)、バランスへの考慮（メリット・デメリット）(7)、温暖化への懸念(6)、世界潮流・時代の要請(6)、先行地域のメリット・デメリットが不明(6)、再エネ(5)、持続可能なまち(5)、総論は賛成だが具体的な取組みに懸念(5)、必然の取組み(5)、補助金の使い道への懸念(5)、わからない・考えたことがない(5)、2050年カーボンニュートラル(4)、住居形態に伴う取組みへの懸念(4)、住民参加への懸念(4)、省エネルギー(4)、SDGs(3)、エネルギー政策(3)、個人の判断で取り組むべき(3)、財政への不安(3)、住民の理解の必要性(3)、築年数が経過した家への懸念(3)、費用面での支援の必要性(3)、有効な啓発策(3)、ライフサイクル全体での脱炭素(3)、経済・まちづくりの優先(2)、現状維持(2)、効果的な手法の選択(2)、実現性への懸念(2)、生活への影響の懸念(2)、成城憲章との関係性(2)、ライフスタイルの変化への懸念(2)、説明会の必要性(2)、特になし(2)、その他・分類不能(13)

【以下、各1件】

きれいごと、景観、建築物への規制、試行に対する懸念、住民意見の反映、成城を選んだ理由が不明、設備の周辺への影響懸念、総合的な視点での検討、地域全体での取組みの必要性、長期的スパン、複数の課題への対応、無理のない範囲で、ボランティアへの懸念、ハードに偏る対策への懸念、十分な調査の必要性、インセンティブ、先行地域と地域づくりの関係性が不明、交通の脱炭素化の必要性、事後フォローの大切さ

問3 成城地区の豊かなみどりの保全や創出、生物多様性の保全、良好な景観などを将来にわたり維持していく取り組みについて、区として積極的に進めるべき取り組みをお答えください。【複数回答】

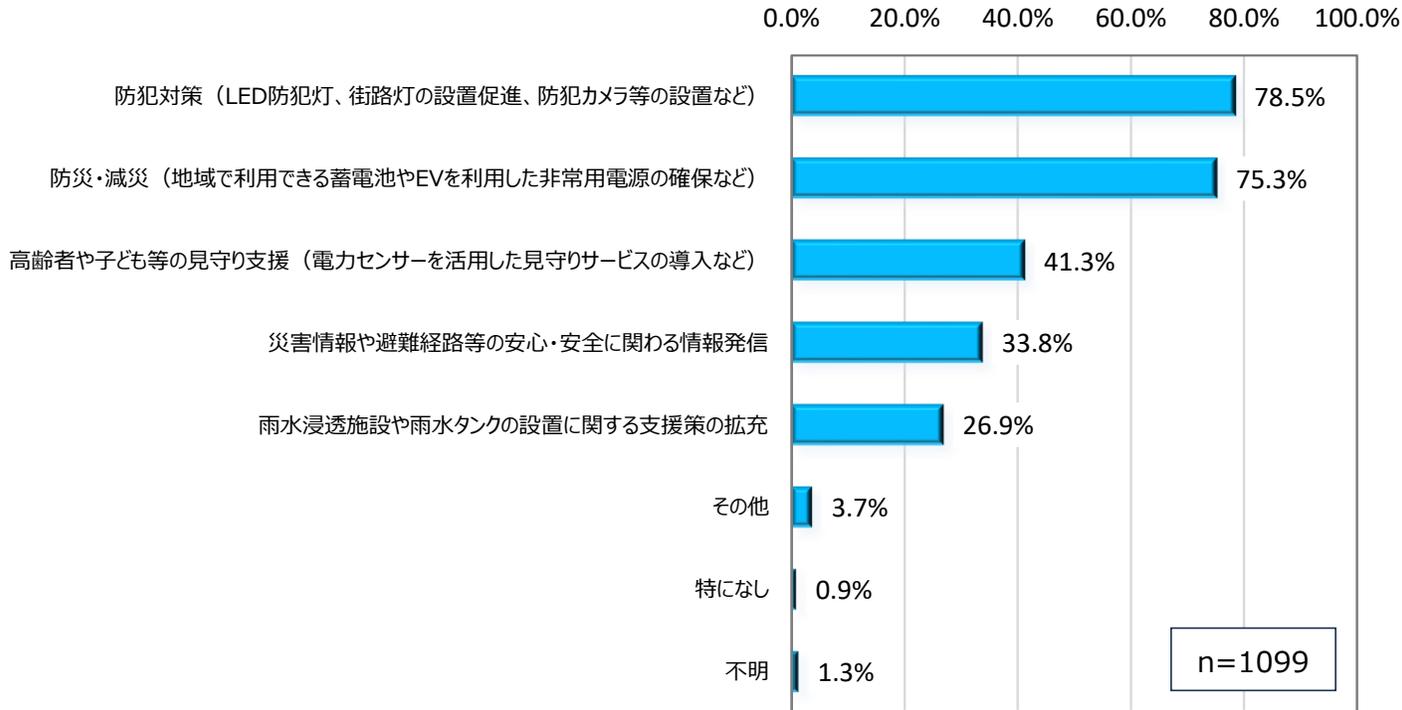


○その他回答（抜粋）

- 屋上緑化。○生け垣・樹木・街路樹の適正な管理。○積極的な補助金。
- 電線・電柱の地中化。○緑地の制限付きでの公開。○土盛り禁止・制限。
- 生け垣のない家の増加への対応（新築後1,2年後にコンクリートに）。
- 太陽光パネルの景観の影響。○剪定した枝、落ち葉の有効的利用。
- 住民への働きかけ方に条例等を駆使して体制を整えるべき。
- 生態系の継続的な調査、研究。○住民の数や構成のコントロールが必要。
- 家庭向けの緑化保全支援（剪定、落ち葉清掃、害虫予防等）。
- 高齢者や不在住宅の落葉対策の必要性。
- 緑化はその目的を明確にし、維持・管理を徹底することが大事。
- 空き家、廃屋の敷地や駐車場を買い上げ（借り上げ）て緑地にする。
- 湧き水の保全を活用。○中途半端な公園や石碑は必要ない。
- 野川及び川沿いの緑の整備、保全。○子どもが安全に遊べる場の確保。
- 木を持っている家の固定資産税減免。○緑の増加に伴う鳥害等の対策。
- 公的な場所で木を切ったら必ず補植。○成城憲章にある緑地の条例化。
- 地道な活動、人材育成、地域への誇り等の意識向上。○保存樹の剪定。
- 町歩きの中で整備し、安全性を保ち、緑の大切さを伝える。
- 落ち葉清掃の定期的な実施、又は清掃用具の定期的な補助。
- 防災インフラと兼ねるようなインフラ（グリーンインフラ）。
- 民間開発に対する規制。宅地の細分化規制、緑化義務など。
- 補助金の交付、空き家対策として区が空家を購入し緑化。
- みどりを闇雲に増やさず適正な管理をできる範囲にとどめるべき。
- 宅地のコインパーキング化の制限や、生産緑地の保全支援。
- 国分寺崖線の同一の文化圏（成城・喜多見・宇奈根）での取り組み。
- 成城地区のタヌキ、イタチの餌場。野生生物がいるのは素晴らしいと思う。外来種ではない。自然が有る証拠である。
- 緑を重視し過ぎて無人になるのは防犯上怖い。○特になし。



問4 地域の安心・安全を維持・創出していくための取組みについて、区として積極的に進めるべき取組みをお答えください。【複数回答】

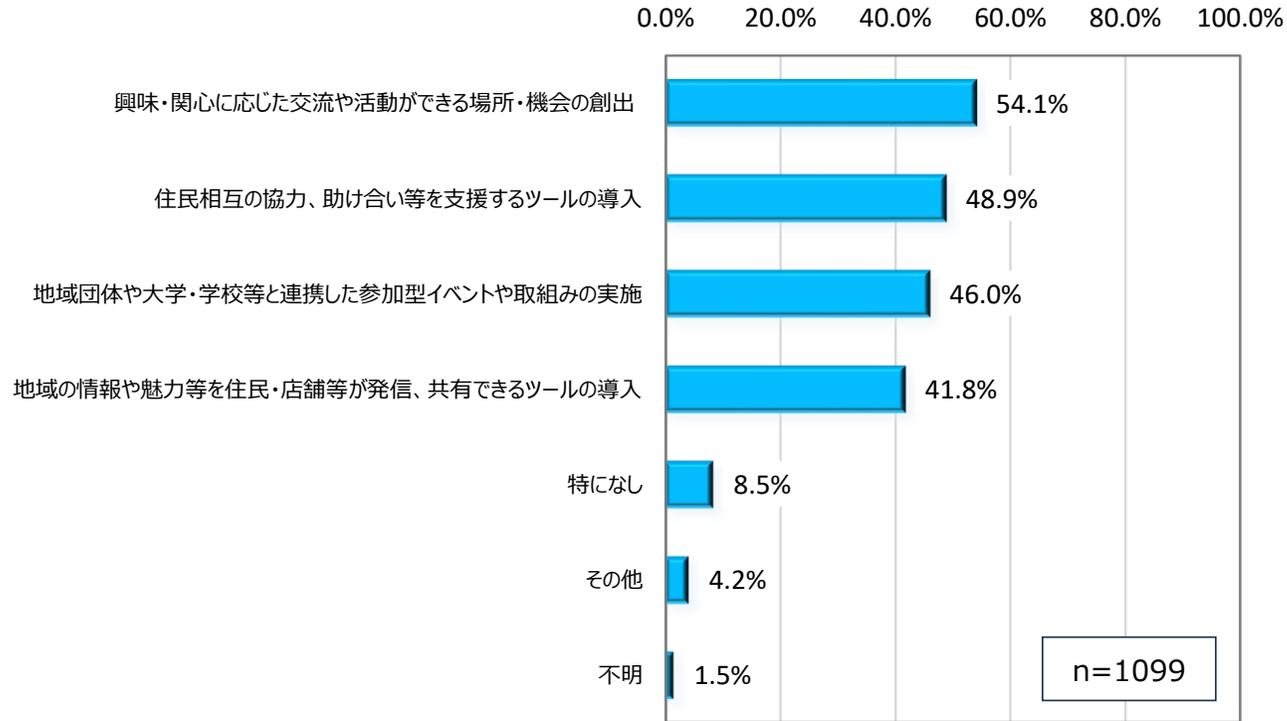


○その他回答（抜粋）

- 災害避難所の充実、増設（場所）の明確化、飲料水等の確保。
- 被災者への心のケア。○AEDの設置。○ハザードマップの更新。
- 地震・火災ハザードマップ。○危険ヶ所（液状化・地盤）の情報提供。
- 高齢者の見守りなどお互いを助け合う啓蒙活動。
- 防災、減災、防犯など広範に亘ってコミュニケーションを高める施策と強化すべき。○災害対策用品のセットを配布。○空き家対策。
- 信号や道路標識の整備。○防犯カメラの設置。○街灯の設置。
- 電線・電柱の地中化。○パトロールの強化。○住民の意識向上。
- 子供から交番の警察官とのふれ合いを増やす。
- 地域住民同士のつながりを促す働きかけ→防犯、見守り支援。取組んでいる民間組織のサポート。○費用対効果の検証が困難。
- 道路にはみ出した樹木・生け垣の剪定。持ち主に注意。
- アンケートなど成城地区の住民の関心の変化の把握。
- 電力センサーを活用した見守りは不要。やめるべき。
- 非常時の際の高齢者世帯へのサポート、仕組み作り。
- 電気自動車比率を上げるための取組み。○核シェルターの設置。
- 点字ブロック、歩道の整備。○狭すぎる道路の整備。
- 空き家を区が購入し防犯対策実施。購入資金はクラウドファンディングにて集める。○高齢者、子供等弱者に対する支援。
- 非防火エリア、人工密度の低さという特性を使って、Q1住宅、電力グリッドと地域蓄電による電力融通、創エネ、雨水や井戸水など、地域全体で消費エネルギーを減らすことで、防災にも強くする。
- コンビニのマルチコピー機やATMの隣にある機械で通報してパトカー来るまでコンビニ内で待機できる仕組み。
- 駅までの歩道のバリアフリー化。○駅周辺の自動車の通行制限。
- 街路樹の掃除に個人に負担がかかっている事を理解して欲しい。
- 防犯対策/防犯カメラ等の情報発信機の利用への反対。
- 学校での当該教育の徹底。教育や人材育成やソフト面の継続実施。



問5 地域住民の活動促進や地域コミュニティの再構築など、住民同士のつながりを感じられる暮らしやすいまちの実現のための取組みとして、区として積極的に取り組むべきと思う取組みはありますか？【複数回答】

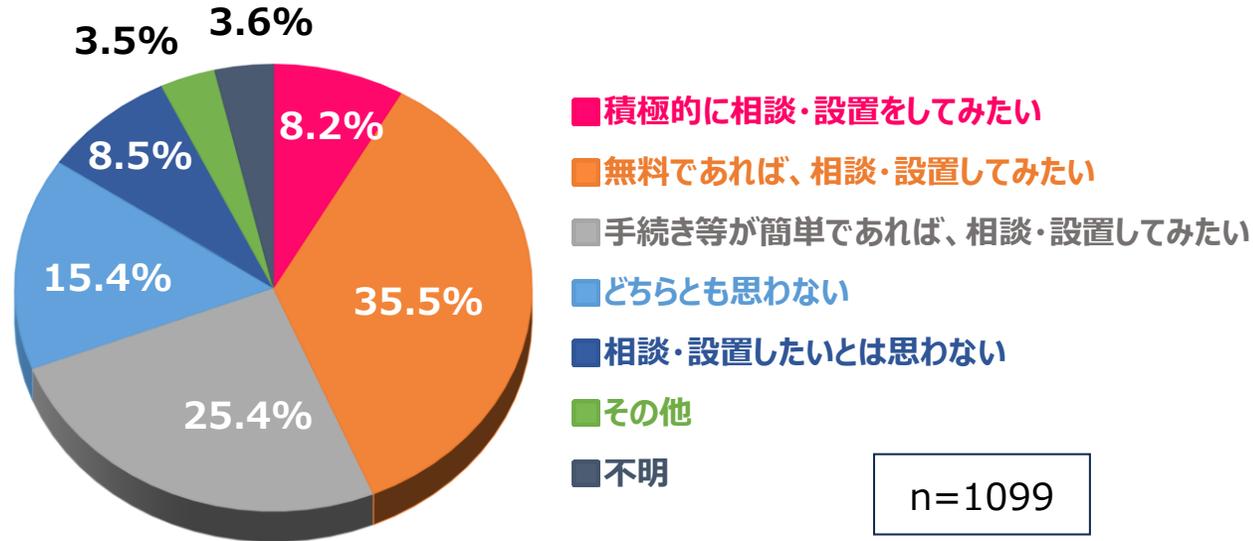


○その他回答（抜粋）

○少なくとも両隣との定期交流の促進。○手渡しのリ覧板。
 ○子供やお年寄りに会ったら積極的に挨拶するような挨拶通りを設定して、会話のある街づくり。○個人商店の復活、その支援。○趣味、おけいこ事、勉強会等。○防災・防犯訓練を通じたコミュニケーションの実施。
 ○良質な地元取引アプリ等で不用品の譲り合い。○平常時からの継続的な取り組みでないと定着しない。自治会も巻き込むとよい。○住民、町会・自治会への加入を促進する手立て。インセンティブ付与など。○区立学校施設の開放。○図書館の充実、あまり使わない物のレンタル、不要品の交換など。○配送業者、郵便局員、定期配達等の個別訪問事業者と行政サービスとの協業。○民間と連携した子育て世代が集える場所の提供。○子育て世代の住民同士が助け合えるコミュニティ創出支援。○ハードの促進。
 ○ふるさと納税を活性化し、地域を活性化を推進。○地域住民が施設を利用する際の利用料金の割引や広報に区の協力が得られるなど。○地域の人々の意識はバラバラなため、身近で何か少しでも良くできる取り組みを見つめる。○困ってることをアピールできる場の提供。○番地ごとの近隣住民向けのイベント促進。○スポーツ系や文化系の有志コミュニティの活動の場の提供拡大。○空き家対策。○利用者が限られるようなアプリ導入などではなく、等身大交流システムなど世田谷区・成城らしいテクノロジーの導入。○意欲がある人同士のマッチングや、活動のスタートアップ支援。
 ○DX化の推進、高齢者にもITツールに触れる機会を設ける。地域から促進機会を増やす。○世田谷区の特産品や企業の誘致のための特区やサービスの充実。○地域貢献でセタペイポイント。○川沿いのベンチ。○人が集まれる場所作り。○神社のお祭りなど地域コミュニティにとっての心の拠り所となるよう区が積極的に取り組む。○自治会の運営方法の公開・改善。
 ○区の取組みは不要。既に自治会が実施中。○SNSでコミュニティが生まれる時代に、行政が介入する必要はない。○コミュニティは住民の自発性による。自治体が主導するのは難しい。



問6 省エネの取組みとして、「省エネルギー相談」（光熱費削減のためにアドバイス・省エネ機器導入効果の診断）や、自宅にある電化製品の電力使用状況がわかる「電力センサーの設置」をしたいと思いますか？



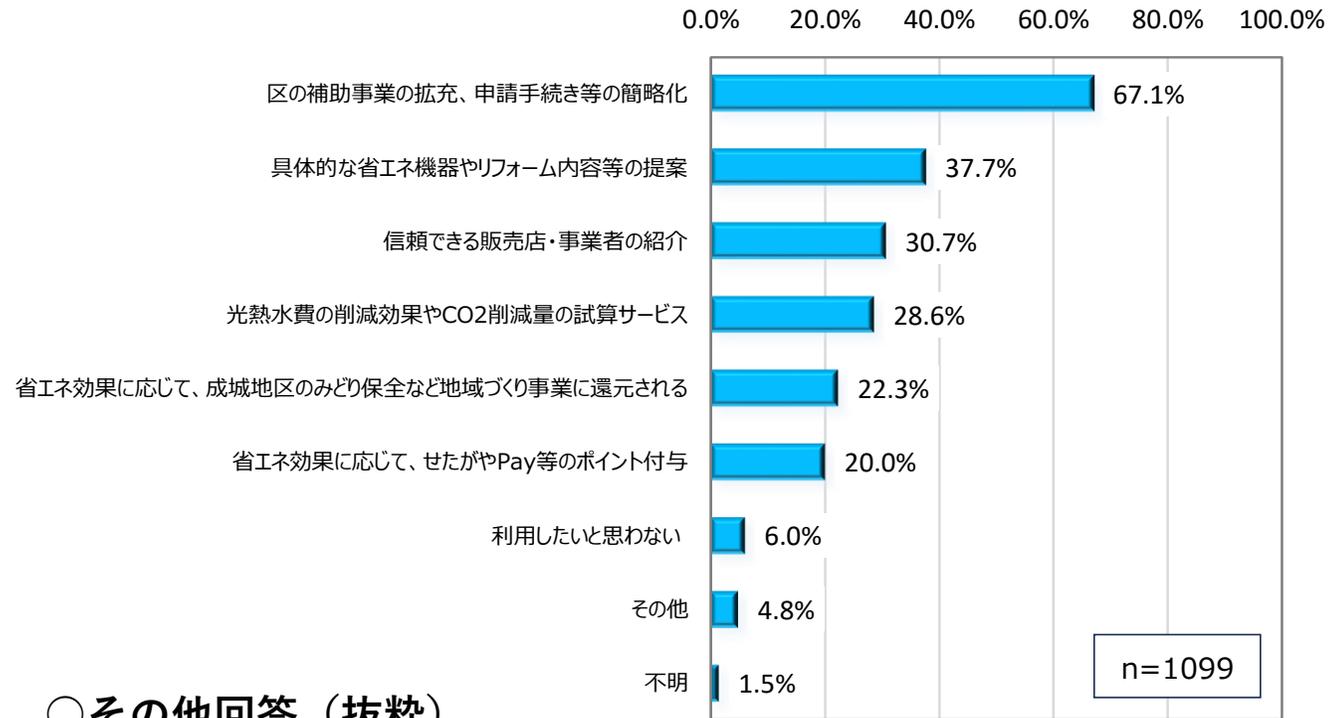
○その他回答（抜粋）

- 設置コストを知りたい。設置後のメンテナンスを継続してくれる信頼できる業者があれば。
- スマホアプリで確認できるようなものなら興味がある。○費用対効果による。
- 相談は必要と思うが、必要電力は使用するもの。○太陽光発電などの設置支援が増えれば、電力センサー設置を検討する。○現行以上のものがあると思えない。○地熱発電を導入してほしい。
- 電化製品を作るエネルギーはムダでは。○そのセンサー自体が電力を使いそう。
- 設置して何かかわるのか。○火災報知機と同じくらい二重窓を義務付けてほしい。
- 各家庭の使用量が区で把握出来なければ、施策を立てるための基礎資料等にならない。
- 使用量が少ない家庭にせたべい付与などの得点を与えることで区民が積極的に取り組むと思う。
- 省エネ、とくに電力については供給側の問題が大きく、消費者の努力ではどうにもならない。
- 相談において流失するエネルギーを示し、抑えるアドバイスも必要。
- 現在ある省エネ製品にはあまり魅力を感じていない。もっと魅力的な製品やサービスが出てきたら検討したい。

○相談・設置しない理由（抜粋）

- 実施・設置済み。省エネ住宅に住んでいる。HEMS導入済み。
- 光熱費削減、省エネの努力をしている。自分でできる。
- 大企業に向けてやらせるべき。○電気屋や量販店で聞くのが簡単で安全。
- 電力会社やガス会社のホームページで使用状況等はわかる。メリットが無いと設置には前向きにならない。○情報提供のみで十分。
- 高齢のため。整備投資はしたくない。現状維持で充分。
- やってる感だけ出したい、行政の思惑しか感じない。
- 個人で対応すべき問題。○省エネは結局は人。一度の相談で十分。
- スマートメータとの違いが不明。○維持費がかかる。○廃棄が大変。
- 適当な場所がない。○建物が古い。○賃貸の為判断できない。
- 本当は良くないものを勧めてきそうだから。信用できない。
- 正しい情報を流してほしい。○税金を用いる意義を感じられない。
- 電力、ガス、車など、各家庭全体で省エネ最大効果を得るためにエネルギーミックスを把握できるようにしてほしい。
- 年毎に省エネ化は進化しているが、年毎に更新することはできない。
- 単に使う時間を減らすのであれば、各戸の総電力がわかればいいはず。
- 必要を感じない。○役に立つか不明。○あまり効果を期待できない。
- 投資回収が見込めない。○具体的なアクションに繋がらない。
- 共同住宅なので合意が必要。○賃貸の為、管理会社の仕事。
- 必要だから使っているのだから使用量を都度わかる必要はない。
- 静かな夜間住宅で低周波騒音や振動を発生させる。被害者側にたった法的ルール確立が必要。○調べれば分かるため、特段相談する必要がない。
- エネルギーは生活文化の基盤。節約ではなく総量を増やす施策をすべき。
- 地球温暖化と脱炭素社会について懐疑的であるため。
- センサーや配線などの工事や外観に与える影響が不明。
- 電力センサー等情報発信する場合、必ず漏洩の危険があるので反対。
- センサーなどは別の用途に使用されそう。
- 相談は良いが、新たに機器を購入する必要は無し。今の状況から、何処をチェックするかの情報発信と実際に行動する方が有効。

問7 省エネ性能の高い家電や機器（冷蔵庫、給湯器、エネファームなど）の導入、エコ住宅リフォーム（窓や屋根の断熱改修など）について、どのような支援メニューがあれば、利用したいと思いますか？【複数回答】



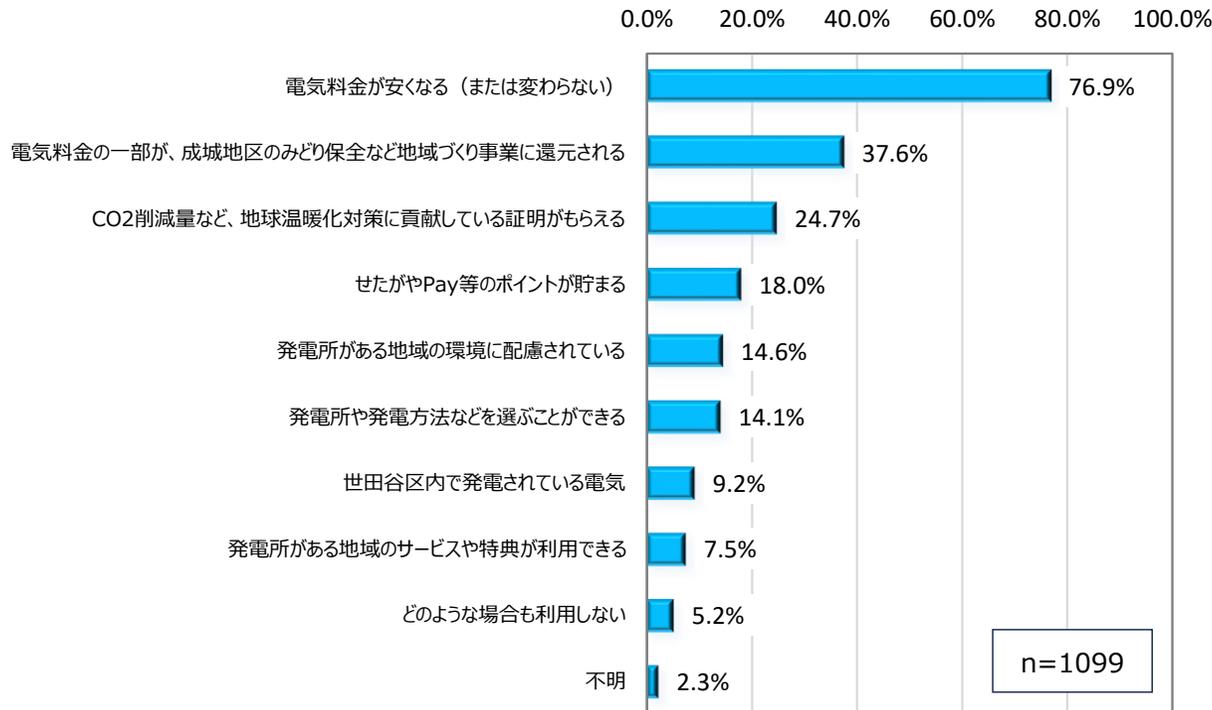
○その他回答（抜粋）

○導入検討時に家屋の構造が対象にならないとされた。○詐欺の心配がないこと。○本当に省エネになるのか説明してほしい。○通年使える予算の確保。○権利よりは義務、支援よりは規制で望むべき。○数年後、サービス終了になるのは困る。○初期負担額の支援と維持管理費の低額化。○モデルケースの紹介や効果、導入コスト（目安）の開示。○消費エネルギーの高い機器は区がレンタルで省エネ機器を常に更新。○マンションのEV充電器設置の補助支援。○CMなどで国民教育。○分かりやすいアナウンス。○古い設備や家電、家の仕組みでも工事不要で対応できるものの紹介・周知。○設備の拡大・更新や蓄電池の導入に対する情報や補助事業の紹介。○マンションの一部屋でもできるメニューがあれば考えたい。○耐震と合わせて壁の補強すべき。○地域低周波騒音や振動問題への対応。○今あるものを修理して使い続ける方が余程エコだと思う。

○利用しない理由（抜粋）

○買い替えのタイミングはこわれた時でよい。○利用者の個性による選択。○個人の努力に頼るべきではない。○日照で充分、夜間寒い時のみ。○支援メニューでは最良の業者を選ぶことができない。○区からの紹介といいながら高額になる事がある。○業者が試算→納得→実施までではなく、効果→なし→問題提言→改善へのフローが必要。○業者を利するだけ。○優れた断熱材の紹介、窓のリニューアル（アルゴンガスの入った窓等）。○金銭が必要な取組みは難しい。○無料なら可。○前提条件不明。○使用エネルギー量が少なく投資対利益（効果）が悪く採算がとれない。○電気代、光熱費が安くなることを。○気にした生活をしたく無い。○リフォームなどの支援メニューは可能な人だけのメニューになり、できない人は受益不可。○不公平感を生む事業に税金を使うべきではない。○年齢的に整備投資はしたくない。現状維持。○家が古い。○借家・賃貸のため。管理会社の仕事。○マンションのため。○脱炭素は地方自治体が税金を使って行うべきものではない。○補助金ありきの事業や機器はやめた方が良い。○血税の使い道として不適切。○家電は、性能やデザインを重視し、省エネは3番目。○騒音が不快。○個人としてメリットがあれば利用したいが、社会全体としてメリットがあると思えない。○現在、検討する時間がない。○お金も時間もかかる。○成城エリアは富裕層が多いので補助金は必要ない。○興味がない。○日本は家電など、十分過ぎる省エネを既に行っている。○一般家庭のCO2排出の3割は自家用車であるので、電車の駅から1.5キロ以内に住む者の自動車税を2倍にする方が遥かに効果がある。○補助事業の内容が不明瞭だが、補助金交付であれば行うべき。ただし、その予算の裏打ちとして、本施策全体の簡素化が必要。○使えなくなったら変えるのが、最もムダがなく環境に優しいと考える。○リフォーム資金がない。○選択肢の中にあるいずれの支援よりも、コストの方が大きいと思われる。○必要があるならば自分で購入する。○やった気になる施策ではなく評価されなくても実効果が高い施策を探すべき。○地球温暖化と脱炭素社会について懐疑的であるため。

問8 電力契約を切り替えることで、自然エネルギー由来（CO2排出量が実質ゼロ）の電力を利用することができます。どのようなメニューであれば、利用したいと思いますか？【複数回答】

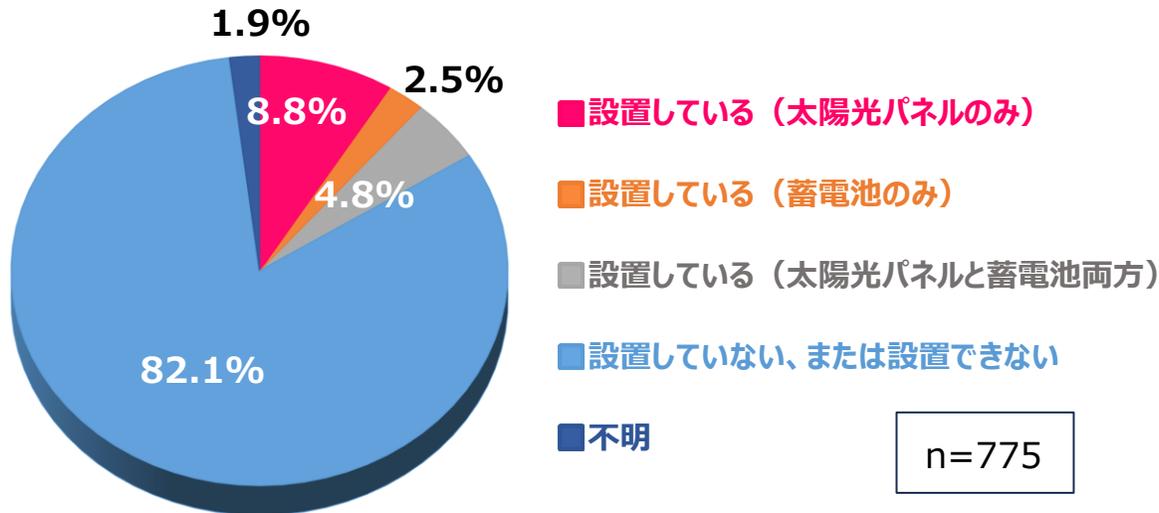


○利用しない理由（抜粋）

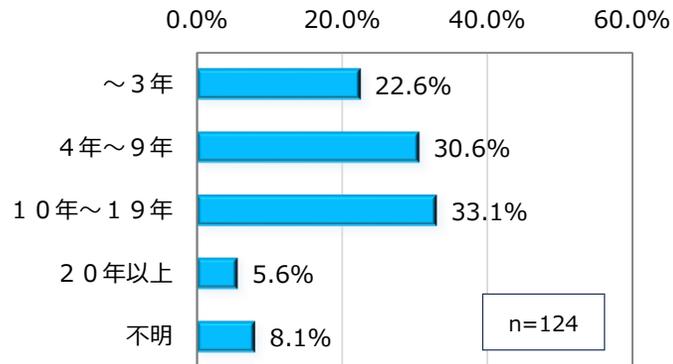
- 何のことが解らない。○具体的なやり方が不明。○契約変更の手間。
- 切替えが面倒。何もしないで切り替えられるならやって欲しい。
- 単に電力契約を切替ることでカーボンニュートラルに繋がるものではない。○排出量実質ゼロは算出の前提条件があるのでは。○脱炭素にメリットがあるとは思えない。○夜間はどうなるのか。実質ゼロなどあり得ない。
- 自然エネルギー自体の環境への負荷。○環境に悪い太陽光パネルやEVを進めて将来に負の遺産を増やさない。○山や木々を切り開きパネルを敷くのは緑の破壊。太陽光パネルの製造のエネルギーや廃棄に疑問。○世田谷区内で太陽光発電を進めることには反対。環境悪化・太陽光パネル処理問題とセットで考えるべき。
- 自然エネルギー由来の電力は、そのTCOE(システムの追加投資など含めたフルコスト)では従来型の電力より高額。○高コストで、現在若しくは将来の税負担が増す。
- 自然エネルギー由来の電力は、電力の出力が不安定であるため。
- 原子力発電を止めたまま計画を立てるのは現実的ではない。
- 電力は生活に必須のインフラなので、料金・ポイント・その他の特典よりも、「安定供給」こそが最優先。
- 継続供給に関して、提供する企業・料金の安定性に信用がない。○環境負荷の少ない電力メニューに信頼がまだもてない。○CO2削減を具体的に信用できるものがみえない。○具体的数値が必要。○提示されているデータが信用できない。○社会の半数以上が切替えたら考えたい。
- 非常時の対応が最善の契約を選びたい。自然エネルギーが非常時に、引けをとらない程度の対応が講じられているならば利用を考える。
- 成城地域としてグリーンエネルギーを導入する。
- 太陽光発電による電力をFITで売電中のため。
- 借家のため。○建物が古い。○高齢のため。
- 電力は国の行政レベルの話。○ライフラインである電力は自由化すべきではない。○環境問題が政治利用されているように感じるから。
- 地球温暖化と脱炭素社会について懐疑的であるため。

一戸建て（持ち家）にお住まいの方のみご回答ください。

問9-1 太陽光発電設備・蓄電池を設置していますか？



○設置年数



○設置できない理由（回答349名：述べ408件）

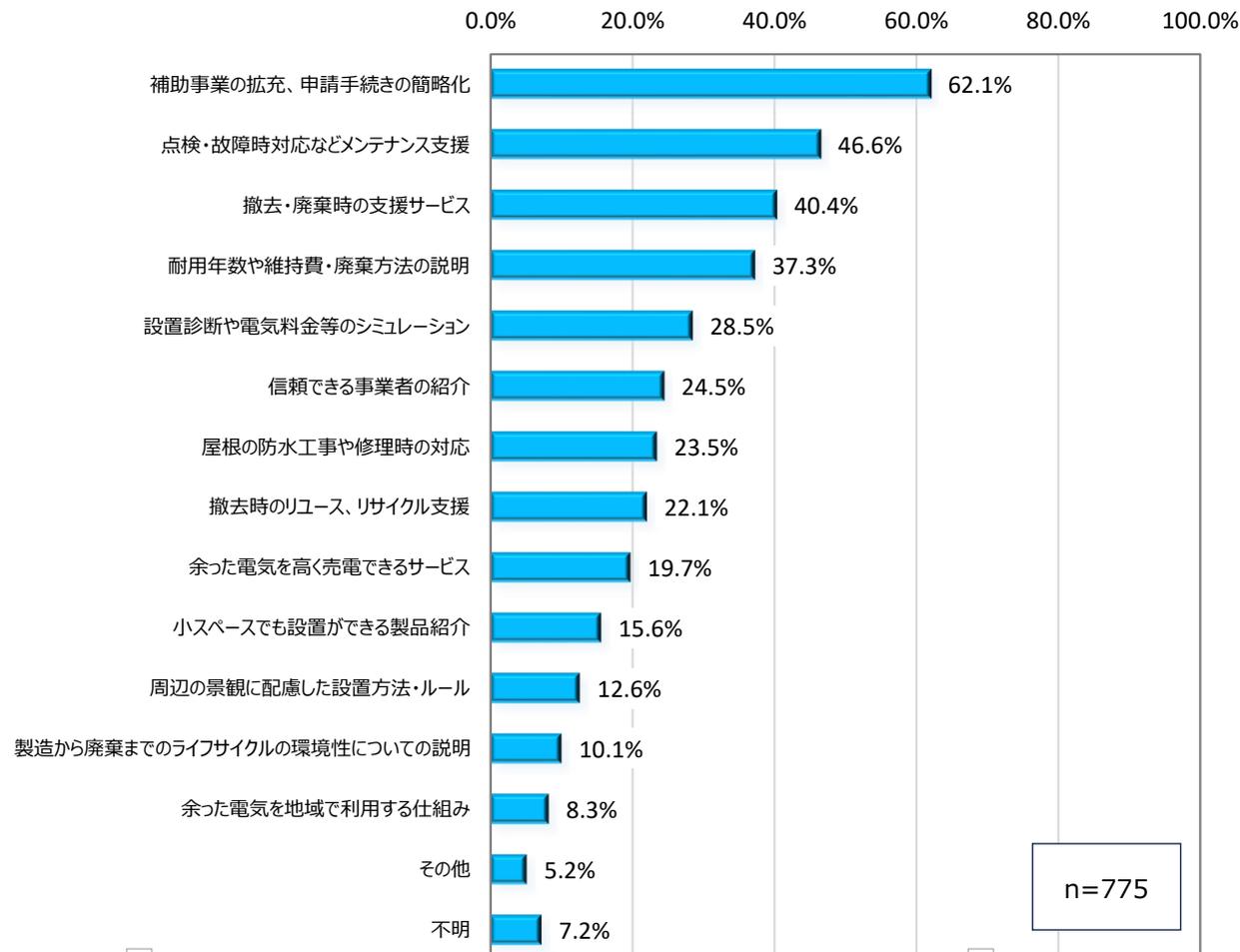
費用・コスト(75)、維持管理・廃棄の問題(32)、家屋の古さ(31)、費用対効果(26)、屋根・建物の形状・構造(26)、関心・機会がなかった(16)、メリット・デメリットが不明(10)、設置場所がない(9)、屋根・建物への負荷への懸念(9)、検討中、検討したい(8)、耐用年数が短い(8)、リフォーム時に検討(8)、年齢的にコスト回収が困難(8)、建築時になかった・高額であった(7)、パネルの環境への影響(7)、安全性への懸念(6)、情報不足(6)、必要なし(6)、景観への影響(5)、エネファーム（家庭用燃料電池）設置(5)、業者試算時に効果なし(4)、樹木の影響(4)、中古住宅(4)、撤去・処分時の負担(4)、手間(4)、建築時に検討しなかった(3)、設備が開発途上(3)、相談できる場がない(3)、耐震性への影響(3)、適切な業者がわからない(3)、特になし(3)、見た目(3)、蓄電池は検討したい(2)、いつまで住むかわからない(2)、興味なし(2)、設備のライフサイクルへの懸念(2)、導入方法がわからない(2)、ネガティブな情報(2)、ペロブスカイトへの興味・期待(2)、発電効率(2)、その他・分類不能(9)

【以下、各1件】

PHEVが勝る、V2Hが品薄、屋上緑化、ガスを優先、軽い素材の開発に期待、考えていない、規制により設置不可、興味はある。区の補助金に非当選。建築時に補助がなかった。建築時はメリットが少なかった。検討したが条件が合わなかった、検討していない、工事が必要災害時の利用が限定的、住宅保証への影響、時間がない、慎重に検討、設置工事への不安、設置条件が不明、設置不可、タイミングを逃した、蓄電ができるなら検討、建て替え、引っ越し予定、電力使用量が少ない、投資回収期間の長さ、リフォームしたて、屋根の補修時に検討、災害時の破損のリスク、買取価格の低下、故障への懸念、陽当り、予定が未定、高周波音

一戸建て（持ち家）にお住まいの方のみご回答ください。

問9-2 太陽光発電設備・蓄電池の設置、またはこれから検討するにあたり、あるといいと思う支援・サービスはありますか？【複数回答】

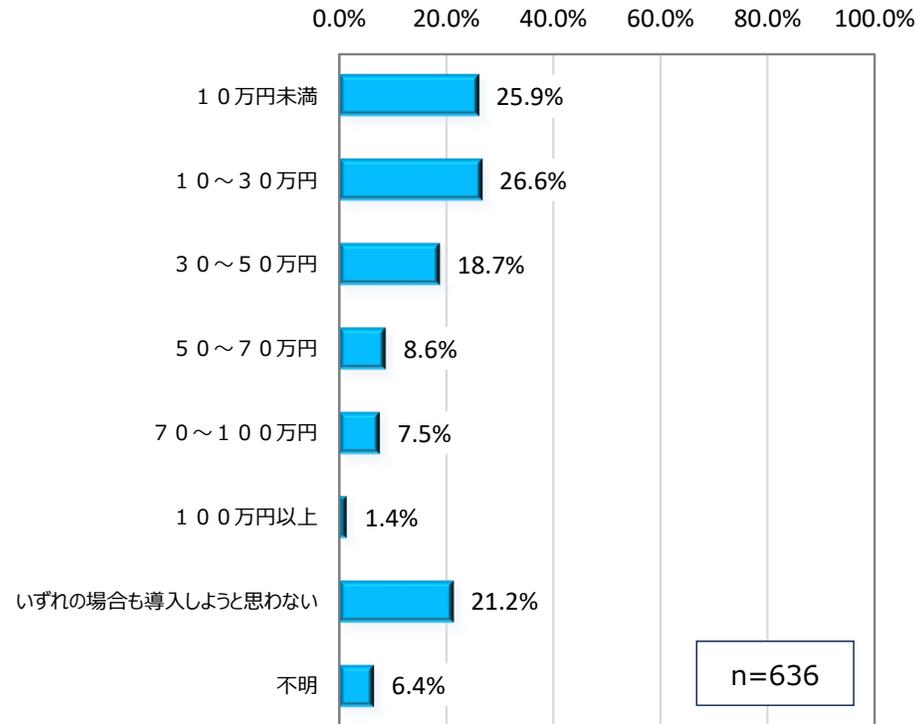


○その他（抜粋）

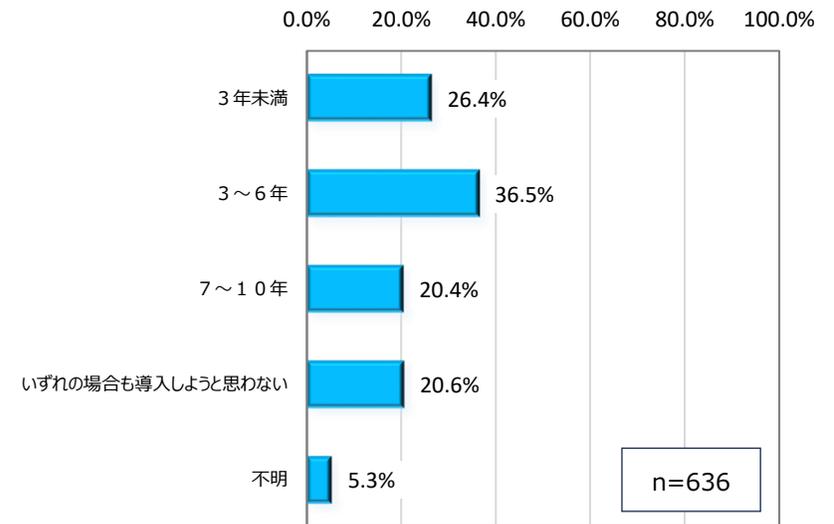
- 省エネ効果の高い断熱工事などを設置した場合、省エネルギー効果がどれ位が測定してほしい。
- 売電価格が昔に比べ安いので、使用する時代と言われた。
- 公園、緑地での太陽光発電設備の設置。○ハウスメーカーとの連携。
- 余った電気を蓄電できる蓄電池情報の発信。○蓄電池のみの設置補助。
- 都会でやる意味があまり感じられない。スペースの問題など。
- 貸与サービス。○軽量化された次世代型設備を検討したい。
- 庭などに設置できる取り扱いが楽な商品開発。
- 築年数が古いのに取り入れられるのか。
- どのような会社によるサービスの提供なのかを精査するサービス。
- 住宅建設に関する無駄な規制をなくす。
- 被害者救済の法的ルールの充実が必要。
- 太陽光パネル災害破損時の即時的対処方法についての説明。
- 国の関与。
- 公共施設を中心に周辺の個人宅を組み入れるシステムを組んではどうか。
- メンテナンスフリーでない限り、設置する気にならない。
- すでに設置している人たちにも支援すべき。不公平になると思う。
- どんなに良い条件であろうと、自然発火→火事の危険性が少しでもあるのは設置したくない。○太陽光発電そのものに懐疑的。
- 粗大ごみ化したパネルの処理方法、処理業者、処理責任者の不明瞭、問題化されている現状では太陽光発電は日本には不向き。
- 都の新築時太陽光義務化は、中止してほしい。
- いずれも不要。○検討しない。○屋根の関係で取付けられない。○高齢
- 地球温暖化とCO2の関係に疑いを持つ教育。
- 雨樋の落ち葉取り。○余ったお金で電柱の地中化を推進してほしい。

問9-1で「4. 設置していない」と回答した方にお伺いします。

問10-1 太陽光発電設備・蓄電池の初期費用（設備費・工事費等）がどのくらいであれば導入を検討したいと思いますか？【複数回答】

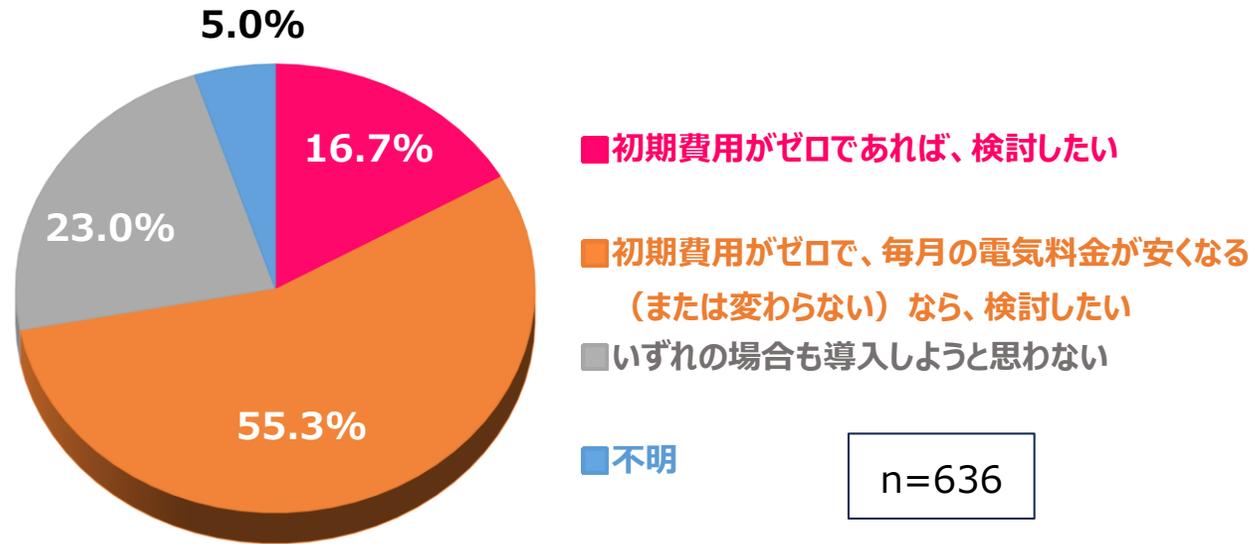


問10-2 太陽光発電設備・蓄電池の投資回収までの期間がどのくらいであれば導入を検討したいと思いますか？【複数回答】



問9-1で「4. 設置していない」と回答した方にお伺いします。

問10-3 初期費用をかけずに太陽光パネル・蓄電池を導入できるサービスもあります。初期費用ゼロであれば設置を検討したいと思いますか？



○自由記述※WEB回答のみ（抜粋）

【太陽光発電】

- 初期費用ゼロモデルは、時期尚早だと考える。○導入費用は検討がつかない。初期費用ゼロにできるなら、なぜ全世界でやらないのか。
- 撤去費や屋根の修理、メンテナンス費も含まれている価格なのか。PPAモデルで、10年後に譲渡されてもそのあと何年使えるのか。
- 結局リース料金を支払う。設置して家屋に損傷があれば自己負担になる。○太陽光パネルで家の断熱効果があれば検討したい。
- 興味はあるが、設計上設置できないと判断している。技術開発で可能であれば。○導入・ランニング・修理メンテナンス・撤去コスト・発生ゴミの全体像が不明。
- 太陽光発電は脱炭素になるのか？○高齢のため、PV導入しても利用期間が短い。○自然エネルギーの電力メニューの料金が高すぎる。
- PVは家を建てた住宅メーカーで施工してほしい。○当該マンションに太陽光パネル設置済み。○賃貸なのでオーナーさんに設置していただきたい。
- 太陽光パネルは、設置する際に除草剤を使う必要がある(場所にもよりますが)、耐用年数がそれ程長くない、サステナブルな機材でない、壊れやすい、景観を悪くする、などのデメリットがあるかと思えます。そのあたりをクリアにしながら進めていただけると有り難いです。
- 最終的に、個人的にも、環境にもメリットがあるのであれば、みな積極的に取り組むべきだが、処分や維持が大変だとなかなか導入は躊躇ってしまう気がします。
- 10年近く前に、居住する集合住宅で太陽光が検討されたときに、初期投資や維持費と比べてペイしないという結論になり却下されました。技術は進歩していると思うので、現在どの程度のか情報でできるのか情報を積極的に配信してほしい。
- 太陽光発電パネルの設置は、災害に弱い、景観を壊す、撤去時のパネルの有害物質処理等、問題山積なので賛成できません。
- なぜここまでしてパネルを買えというのか。西欧はパネル、風車、EVに懐疑的になりつつある。○個人の利益が社会全体にマイナスとしてばらまかれているだけ。
- 太陽光パネルは、木を切ったり、景観を損なってまで導入できない。○太陽光パネルによる発電は効率が悪くその製造過程に使われるエネルギーをペイできない。原子力発電所の安全性能確保のための改修工事を電力会社に強制し早期に再稼働させ核燃料サイクルを行いつつ核融合技術に資金投入して早期実現させるべき。
- 太陽光発電が日本の風土に効果が低い事、補助金の無駄使いをやめることを少しは考えて欲しい。○太陽光パネルなど、全て日本製品にて対応を考えて下さい。
- 太陽が陰れば発電しない様な不安定な太陽光発電方法では電気代の軽減化には何ら役立たない。現時点での太陽光発電導入は日本の綺麗な山や川辺等、自然を破壊する以外の何物でもない。

【みどり・自然】

- 自宅の緑化については、植物は育つことを踏まえて、建築時から将来を見越してご判断をいただけると良いと思います。
- 電線埋め込みによる景観改善は重要。緑化と言った本質的なエコに取り組んで欲しい。
- この事業での収益の一部を街の緑化に利用できる様な仕組みを作って欲しい。○区による道路植樹実施。
- 庭の木や街路樹が増えると、歩道が狭くなったり、伸びたり、垂れてきた枝が目に入ってきたり危ないことが多いので、そういう場面が増えてしまわないかが心配です。
- 成城みつ池緑地等の豊かな自然を残してください。○空き家や生産緑地の緑地としての活用（コモン）。既存の緑地の拡張・保全。家庭の植栽・剪定の助成。
- 生垣など住宅のグリーン化に対する住民の意識を更に引き上げる施策の検討。

【交通・まちづくり】

- この地域の自家用車の自動車税を2倍に引き上げることが、太陽電池設置などと比べて遥かに効果があり効率がよい。まして成城に住んでいれば電車などの公共交通だけで生活に不便はない。○EV車が増えてくるかと思うので充電ステーションの拡充頂けると住みやすい街になるかと思えます。
- 公共の乗り物については積極的にBEV化して欲しい。また集合住宅でも充電出来るようなインフラの拡充も必要だと思う。○車の流入を抑えて欲しい。
- スマートグリッドを使った地域ごとの蓄発電と災害時の電力融通システムを考慮したらどうですか。
- まず、自販機やコンビニ、スーパーの省エネ化、電気を無駄に使わない取組み。明るすぎる。

【普及啓発】

- 適切なアンケート調査は積極的にした方が良い。○アンケート調査の電子化。○スマホ回答が楽で良い。○アンケート結果の公表。
- 環境意識の高い若年世代を呼び込むこと。○イメージだけの調査は無意味。具体的効果を定量的に議論すべき。



○自由記述※WEB回答のみ（抜粋）

【成城脱炭素地域づくり】

- 世田谷区として、世界に貢献できることは、住民としても協力してやっていきたいと思えます。引き続き、暮らしやすい環境の保持をよろしくお願いいたします。
- 各種施策を積極的に進めることに賛成です。○財政の負担を伴うものである場合には、コスト対効果を示して頂く必要があると思えます。
- モデル地区とし、先端の高級住宅地もしてのブランディングを目指してもいいかも知れない。○防災対策とともに脱炭素地域づくりに取り組むべき。
- 各自の取り組みの効果、又は、取り組まない場合の悪影響が実感できるといいと思えます。○マンションでもできることが不明。提示があれば管理組合で協議が可能と思われる。
- 非防火、密度、高緑率、高所得など地域の特性を活かした他とは違う制度設計をおねがいします。補助金よりも都市計画と連携した規制緩和のほうが有効な感じがします。蓄エネ、ゼロエミッション達成の場合は5%容積緩和など。○太陽光発電や蓄電池の普及に注力いただきたい。緑化等まで手を広げると、本来の目的以外に資金や労力が投入され、取り組みが肥大化する割に、目指すべき効果が得られない。また、違う目的で脱炭素の取組が利用されかねない。
- 積極的に発信をお願いします。○推進して下さい。○世田谷区民として脱炭素への取組は応援しています。○実態の伴った取組を願います。○積極的に参加・応援していきたいです。
- 地域コミュニティの安心・安全を第一に考える時、「太陽光パネルの危険性の除去」を旗印にした区政を先ず進める、設置推進活動はその後の話。
- 当地域発の脱炭素的新時代の豊かなライフスタイルを、住民が創造し発信できるような運動に繋がっていけば素晴らしいと思えます。
- 脱炭素社会への取り組みは、特に最近の気候変動で実感することも多く、深刻な問題だということは頭では理解しているが、実際の生活ではやや他人事のように感じている。日々の生活の中で安易に取り組める内容をメニュー化するのはいかがでしょうか。○どんな取組をしているかわからない。
- 「脱炭素」を掲げることで、極端な施策にならないように願います。○脱炭素を個人の責任として捉える良い機会でした。これからも意識してしていきたい。
- 誰が何時までにどのように進めていくか、をしっかりと決めて、また出来なかった場合はどうするか、についても決めた方が、いい加減にならないので良いと思えます。
- 行政成城地区が積極的に脱炭素の取組をしたいことが分かった。もっと地域住民に発信して、やりたい方向をアピールすべき。きちんと理解すれば、是非協力したい。○例えば自動車のEV化が電池廃棄物の大量発生をもたらすように、負の遺産を伴うことが危惧される。○成城自治会と連携してください。区は、情報提供のみで良いです。
- このアンケートは、最後に太陽光発電をおすすめする流れになっています。世田谷区として、発電事業者の入札でも行って促進することが決まっているのでしょうか。
- 脱炭素の取り組みを進める費用は、税金だけでなく、住民が出資してファンディングする方法など柔軟な方法を考えても良いと思う。
- そもそも脱炭素でCO2排出ゼロなどあり得ない。脱炭素を名目に、税金を吸い上げる利権団体が発生するのは都民としても区民としても納得がいかない。
- 地球温暖化と脱炭素社会について懐疑的であるため、積極的に取り組んでいただきたくない。
- これから建築しようという建物は比較的導入しやすいのかもしれないが、既存の建物については、鉄筋コンクリートか木造か、築年数、耐震性能、さまざま事情が違ってくるので、地区で足並みを揃えて制度に従えというのは無理があると思えます。資金面について補助すれば導入できるというものではないです。
- まず、制限速度30Kmを徹底的に取り締まり、穏やかで排気ガス、騒音、振動の少ない環境を警察とも連携して環境づくりのペースを使って頂きたい。さすがは成城と言う環境を。そのペースが出来たら、自然に脱炭素活動は、活発になります。地価は同じくらいでも、田園調布の方が遙かに制限速度を守り、穏やかな環境だと思います。

【その他】

- 二酸化炭素を取り込む装置の開発にお金をかけてほしい。○環境整備は長い目で継続していく。住民間で不公平などのないようすべき。
- 直接関わらないかもしれませんが、ゴミ出しの有料化（ゴミ袋など）によって、脱炭素への設備費用にしてほしいところです。
- 化学界では「脱炭素」ではなく「カーボンニュートラル」もしくは「炭素循環」という言葉を推奨しています。
- 今回のアンケートは二酸化炭素削減の一部に関してですが、二酸化炭素削減について個人の生活でできることがたくさんあります。環境政策は膨大な予算を使ってきており、複雑で変化するのでその場限りの政策にならないことを期待します。○アンケートの回答が書きにくかった。○成城憲章が守られるようにしてほしいです。
- 成城は建ぺい率が低く、最低敷地面積も大きい為土地活用がしにくく、資産家でないと住めないと思えますが、平均的な住宅街に変更して、エネルギー的にもコンパクトで持続可能な住宅街になることを期待します。大きく、費用の高い立派な家を建てることは個人の自由ですが、家の寿命も短く、二酸化炭素を膨大に出しています。一代限りの家も多いと思えます。景観は大切ですがこれを建ぺい率、最低敷地面積から後押ししているように感じ、二酸化炭素削減との整合性が理解できておりません。
- 緑化について、防災防犯について、の選択肢が各三つずつしか選択できなかったのですが、取捨選択は難しく、全部必要では??と思いました。
- 省力化が可能であれば、余剰金で街の景観、特に電柱の地中化のコストに充てて欲しい。○全地区の電線を地中化して欲しい。町目によって差が出るのは悲しい。